

■ **ご挨拶**

NPO法人 三重県防犯設備協会
理事長 藤村 喜成

新年あけましておめでとうございます

令和7年の新春を迎え、会員の皆様におかれましては、ご健勝にて輝かしい新年を迎えられましたこと、心よりお喜び申し上げます。

また、平素より三重県防犯設備協会の活動にご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

昨年は、当協会初めての「事業用ビルの防犯診断」や「各種イベントなどでの防犯機器の展示・説明」などの取り組みで地域の安全確保に貢献できましたこと、これもひとえに、皆様のご支援とご尽力の賜物と存じます。

防犯意識の高まりとともに、私たちの使命は一層重要性を増しております。

新しい年も、皆様と力を合わせ、より安全で安心な地域社会の実現に向けて邁進してまいります。

具体的には、「まちの防犯診断」の推進、地域との連携強化、「防犯スペシャリスト向けミニ研修」による防犯技術の向上など、多岐にわたる取り組みを計画しております。

最後になりますが、皆様のご健康とご多幸をお祈りするとともに、本年も引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

■ **協会の活動内容**

1. **安全・安心フェスタまつさかで防犯展示・説明**



展示説明の様様



ガラス割りの実演

令和6年12月1日松阪農業公園ベルファームにて安全・安心フェスタが開催されました。

市民の皆様にご覧いただき、「交通安全」・「防犯」・「防災」について考えていただく、知っていただく『安全・安心フェスタまつさか』は、年末を迎える中、多くの方が展示や各種体験を通して、安全・安心の意識を高めました。

三重県防犯設備協会としましては、ガラス割り実演、防犯設備の展示・説明、防犯相談のブースを

設置し、防犯の重要性や防犯設備のアピールを行いました

今年も、毎年ご好評を頂いているガラス割り実演を11時、13時、14時半の計3回行いました。

最初に防犯設備士から一般のガラスと防犯ガラスの違いを説明し、防犯ガラスの重要性を理解してもらうのですが、集まった皆さまは、本当に割れないのか？何が違うの？と半信半疑で説明に耳を傾けています。

そこで、実際にハンマーでガラスをたたいて頂き、どうなるのか実演して頂きました。

一般のガラスはハンマーで1回たたきただけで、簡単にガラスが割れる中、防犯ガラスは何度叩いても、ひびが入るだけで割れないため、見ているお客様からも多くの歓声が起こりました。

ハンマーでたたいても割れないことを経験することで、防犯ガラスの防犯性能を多くの人に知ってもらう良い機会になったのではないかと思います。

防犯設備の展示ブースでは、

①スマホから操作できる防犯カメラ

②カメラ付きドアホン

③防犯グッズ・防犯ガラス・防犯砂利

④CP錠・チェッキー、電池錠

などを展示し、見学者は各々防犯設備士からの説明を熱心に聞き入っていました。

特に、スマホから操作できる防犯カメラには子供たちも興味津々で、良いアピールになったと思います。



(松岡理事記)



三重県の安全・安心まちづくり

NPO法人

三重県防犯設備協会

<http://www.miebouhan.com/>

2. 安全で安心な三重のまちづくりアクションプログラム(三重県環境生活部寄稿)

○ 最近の犯罪情勢と課題

平成14年以降、県内における刑法犯認知件数は年々減少が続きましたが、令和4年から増加に転じ、令和5年は前年比プラス2,308件の9,955件と大幅に増加しました。また、県民の方が身近なところで不安を覚える街頭犯罪のほかに、人の尊厳を奪う性犯罪が後を絶たないことや、巧妙な手法で財産を狙うSNS型投資詐欺といった特殊詐欺事件が相次ぎ発生していることをふまえ、このような犯罪の被害から身を守るための地域における防犯力の強化が課題となっています。

○ 安全で安心な三重のまちづくりアクションプログラム第3弾について

このプログラムは、行政による取組とともに、県民・事業者の皆さん自身の「アクション（行動）」により、防犯・交通安全にかかる取組を総合的に推進していくため、平成29年1月に三重県が策定したもので、これまで二度の改定を経て、現在は「安全で安心な三重のまちづくりアクションプログラム第3弾」（計画期間：令和6年度～令和8年度）に基づく取組が進められています。

このプログラムを、県民の皆さん一人ひとりが防犯意識を持つ「きっかけ」として、防犯ボランティアの「支援ツール」として、事業者の方が防犯・交通安全に係る活動を始める際の「手引き」として、市町等関係機関が安全で安心なまちづくりに係る取組を検討する際の「指針」としてそれぞれ活用いただき、皆の力を合わせて安全で安心な三重をめざしていきます。

○ 安全・安心な三重のまちづくり防犯サポート事業者登録制度について



三重県では、犯罪や交通事故のない、安全で安心な三重の実現に向けて防犯・交通安全活動等、安全安心なまちづくりにつながる活動を実施していただける事業者（サポート事業者）を募集しています。

サポート事業者として、ご協力いただける事業者については、その事業者名と活動内容等を三重県HPでご紹介するとともに、事業所へ貼付してもらおうステッカーを交付しています。

なお、令和6年11月現在で、428店舗の事業者に参加していただいております。今後は県内全域に展開していきたいと考えていますので、ぜひ、ご協力をお願いします。

登録制度の詳細は、三重県HPをご覧ください。



制度の概要

3. まちの防犯診断を企画



案内のチラシ

三重県防犯設備協会は、防犯設備士による「まちの防犯診断」を推進し、地域住民と協力して防犯意識を高めることを目的としています。犯罪認知件数が増加している今、地域防犯活動の重要性が高まっています。

本企画では、防犯設備士が地域住民、警察、自治体と協力し、防犯診断を実施し、診断で特定された危険箇所に対して、防犯設備の設置や改善策を提案し、診断結果を「まちの防犯診断報告レポート」として共有します。

また、防犯カメラの設置や防犯啓発活動を通じて、地域住民の防犯意識向上を図ります。

課題として、地域のパートナー探しや認知度向上のための取り組みが必要です。

地域イベントへの参加やSNS、地元メディアの活用を通じて防犯診断の意義を広めます。

さらに、地元の防犯協会や自治体のネットワーク、ボランティア団体との協力を強化し、防犯力の向上を目指します。

この企画を通じて、安全で安心な地域社会の実現を目指し、継続的に「まちの防犯診断」を推進して参ります。

4. 犯罪のない安全で安心な三重のまちづくり推進会議で防犯活動の提案

令和6年10月31日に三重県津庁舎会議室で開催された第2回「犯罪のない安全で安心な三重のまちづくり推進会議」では、「特殊詐欺被害防止」と「自転車盗の被害防止対策」について協議が行われました。会議で時間をいただき、リーフレットを配布し、推進会議委員を対象にアンケートを実施しました。



推進会議の様様

アンケート結果によると、三重県防犯設備協会の事業についての知名度はまだ十分でなく、認知度向上が喫緊の課題であることが明らかになりました。アンケートのご意見で認知度向上には、対象として地域防犯団体、アパート所有者、ハウスメーカー、建築設計会社、大学生およびその保護者が重要とされています。

また、新聞広告やSNSを活用した情報発信が効果的であり、教育機関や不動産業界との連携が提案されました。

(藤村理事長記)

5. 防犯スペシャリストのミニ研修会開催

令和6年12月19日津市丸之内のMECビルで定例の三防設理事会に続き防犯スペシャリストを対象としたミニ研修会が開催されました。講師に三重県警察本部生活安全企画課中村課長様をお願いし「昨今の特殊詐欺と強盗被害の現状と手口、防犯機器の設置と効果」などの内容で裏話を交えながら1時間講演いただきました。講演の後、質疑応答が行われました。

(加藤理事記)

6. 行政との情報交換会開催

令和6年11月20日定例の三防設理事会に続いて年1回開催する行政との情報交換会を（有）松林工業の会議室で16時から17時30分まで開催しました。

この情報交換会は三防設の活動内容や今後の事業の展開などを発表し、行政の意見をお聞きすると共に行政側の安全安心の施策をお話いただき、お互いに意見交換する目的で開催するものです。

今回は、県警生活安全企画課の服部様、県防連山内専務理事に出席いただき三防設から6月に実施したテナントビルの防犯診断の報告と企画中の「まちの防犯診断」を発表し意見を交換しました。

県警、県防連からは今後の防犯に対する施策についてお話をお聞きしました。

(楠副理事長記)

■関連行事・イベント・その他

1. 【日防設】第19回都道府県防犯設備士(業)協会全国大会



全国大会の様様

令和6年11月8日 仙台市のTKPガーデンシティ仙台において、公益社団法人日本防犯設備協会「第19回都道府県防犯設備士業協会全国大会」が開催され加藤が出席いたしました。

本会議では警察庁、宮城県警察本部、宮城県防犯協会連合会の来賓ならびに全国の24地域協会の代表が出席し、総勢73名の参加で開催されました。

廣田代表の挨拶では刑法犯認知件数は、コロナ明けとともに増加基調に転じており、このまま増加が続くのか予断を許さない状況である。

また、闇バイトによる連続強盗傷害事件の多発、大規模自然災害発生後の被災地における防犯対策などが大きな課題で防犯設備士や総合防犯設備士の皆様方の役割や活動への期待が高まっていると述べられました。

続いて来賓の挨拶の後、本会議に入り日防設から報告があり主な事項を挙げると

- ①防犯設備士養成講習・資格認定試験の状況 ピークは2017年の1387名で2024年前半330名と減少傾向が続いている、受験者増のため紹介制度を活用して欲しい
- ②総合防犯設備士制度事業の見直し 受験資格3年間の経験不要、筆記試験で一度合格した科目は3年間有効
- ③防犯優良住宅認定基準ガイドライン（案）について 警察庁の「安全・安心まちづくり推進要綱」改訂（2025年3月予定）の内容を確認して施行したい
- ④防犯設備士、総合防犯設備士の資格更新制度の改訂案について 3年更新を5年にする、過去の取得者すべてを対象とする（現在は平成24年以降取得者が対象）

本会議の後、宮城県、山形県、広島県から活動状況の報告がありました。

第2部の講演会では美和ロック株式会社 仙台営業所長 小高様から「錠前の変遷と基礎知識」をテーマに講演いただきました。

第3部の懇親会は次回開催地の大阪府防犯設備協会 平野理事長の中締めにより閉会となりました。

(加藤理事記)

2. 三重県の安全・安心まちづくりフォーラムで防犯機器を展示説明

令和6年8月19日、三重県庁講堂にて「安全・安心まちづくりフォーラム」が開催されました。このフォーラムは、防犯ボランティアを対象に、防犯に関する情報提供や意見交換を行う場です。三重県環境生活部長の開会挨拶に続き「安全で安心な三重のまちづくりアクションプログラム」の説明が行われました。

その後、県内の防犯ボランティア団体の七和地区社会福祉協議会（桑名市）、四日市大学地域パトロール部（四日市市）、劇団“いが悪徳バスターズ”（伊賀市）による事例発表が行われました。フォーラムの後半では、皇學館大学の藤井恭子准教授による「地域ボランティア団体のリーダー養成について」の講演が行われ、リーダーシップの重要性が共有されました。また、会場では当協会が防犯機器の展示説明を実施し、防犯相談にも対応しました。

（藤村理事長記）

3. 地域安全・暴力追放三重県民大会で防犯機器展示



ロビーでの展示

令和6年10月2日13時から16時まで三重県総合文化センター中ホールで（公社）三重県防犯協会連合会、（公財）暴力追放三重県民センター、三重県警察の主催で地域安全・暴力追放県民大会が開催され、当協会はロビーでパナソニックのテレビ付きインターホン、美和ロックの錠前などの防犯機器の展示と説明を行いました。

大会は、副知事、県警本部長も出席され、地域防犯連絡員、防犯委員を始め地域のボランティア団体から約600名が参加され盛大に開催されました。

第1部の式典では来賓の挨拶に続き、地域安全活動に功労のあった防犯功労者・防犯功労団体が表彰され、第2部では、基調講演でスクールカウンセラー・公認心理師・保護司の安永智美様が「犯罪・暴力団を生まない「入口暴排」は子どもの健全育成と非行防止」のテーマで講演され、県警の特殊詐欺被害防止寸劇、最後は県警音楽隊の演奏で閉会となりました。

（加藤理事記）

4. 中部地区の防犯設備士対象更新講習を実施

令和6年8月28日名古屋市ウィルあいちで防犯設備士の更新講習が開催されました。

午前中は愛知県セルフガード協会会員の8社が出展した防犯機器展示会で防犯カメラ、ドアホン、錠前、自動車盗難防止機器等が展示説明されました。

午後からの共通講習では愛知セルフガード協会の小林総合防犯設備士の講師により参加した41名の受講者に講習が行われ、休憩後地域協会主催のセミナーで大阪府防犯設備協会理事長の平野講師が「AI機能付き防犯カメラ活用について」のテーマで講演されました。

（加藤理事記）

■ 会員動向

会員プロフィール紹介



千種 拓哉	防犯設備士 第18-2931号
勤務先	リコージャパン株式会社
電話	080-2409-4054
E-mail	Takuya.Chikusa@jp.ricoh.com
趣味	居酒屋探訪、ゴルフ
HP	https://www.ricoh.co.jp/products/line-up/surveillance-camera

弊社では、日本全国でセキュリティカメラを提案しており、私は三重地区のカメラ専門として大企業から地域の中小企業まで幅広くサポートしています。最近では、防犯目的だけでなく、工場内での安全管理、生産性向上としての導入も多くなっております。

■ 事務局からのご連絡

- ・ 次回発行予定 三防設通信は第35号を2025年8月にお届けの予定です。
- 編集責任者 NP0法人 三重県防犯設備協会 〒514-0131 三重県津市あのみつ台4-7-7（三重電業(株)内）
TEL 059-232-0303 FAX 059-232-5586